

福島県立会津支援学校

福島県会津若松市一貫町大字鶴賀字下柳原 102 番地

電話 0242-32-2242 / FAX 0242-32-6079

発行日 令和2年7月31日(第63号)

～こだまする～

校長 伊藤 俊幸

昨年度末から日本はもとより、全世界に広がった新型コロナウイルス感染症のため、令和2年度は桜の季節だけでなく新緑の季節も児童生徒と一緒に、花や木々をゆっくりと愛でることができませんでした。何とか学校が再開できたのが、5月末で梅雨の時期が目の前に迫っていました。この間、保護者の方々、事業所・地域の皆様には大変なご協力・ご支援をいただき、本当にありがとうございました。

学校は再開後、感染症防止対策をとりながら、学習活動を展開しております。いまだ先の見えない感染症対応ですが、できる限り感染リスクを軽減させながら、学習活動を行ってまいりますので、これまで以上のご協力をお願いいたします。

さて話は変わりますが、校長室の棚を整理してしましたら、ある会報に「金子みすゞ」の詩を見つけました。童謡詩人である金子みすゞは多くの作品を残しています。「私と小鳥と鈴と」の詩はみなさんもきっと知っているのではないのでしょうか。

この会報には「こだまでしょうか」が引用されていました。

「遊ぼう」というと、「遊ぼう」という。(中略)さびしくなって、「ごめんね」というと、「ごめんね」という。こだまでしょうか。いいえ、誰でも。

投げかけられた言葉や思いに反応するのは「こだま」だけではなく、万人の心がそうだと金子みすゞは言いたかったのでしょうか。

ちょっと言い過ぎかもしれませんが、時間的にゆとりがあった時代、多くの大人に囲まれ、子どもが「〇〇」というと、大人はじっくりと聞いてあげ「そう〇〇なの」と返してあげていました。しかし、時間に追われている現在の生活では、徐々に失われつつあるのではないのでしょうか。今、会津支援学校の教室を回っていると、まだこの「こだま」は生きています。小学部の子どもが「パズル」というと。「そう、パズルやりたいの」と子どもの気持ちを押し量りながら言葉を返してあげています。

中学部や高等部になると、共感的に繰り返して、会話をしていることが多く見受けられます。

今後、ICT機器を活用した授業が増えるだろうと予想されます。しかし、特別支援教育では、「こだますること」を決してないがしろにしてはいけないと、この新型コロナウイルス禍の中で改めて思う次第であります。

～安全・安心に向けた取り組み～

生徒指導部

生徒指導部では、「安全な生活や通学に向けた指導の充実」、「関係機関と連携し、事件事故の未然防止や早期発見、早期解決」といった重点事項をあげており、全職員が一丸となって学校全体で指導にあたっています。

1 安全な生活や通学に向けた指導

(1) 通学について

- ①「通学の手引き」を使って、通学バスの利用や自力通学の捉え方、通学の諸手続等をお知らせしています。これをもとに教員と保護者が連携して「適切な通学方法」や「自立した通学に必要な力」等について考え、指導を行っています。
- ②下校時、学校から会津若松駅までの通学路において、不審者への警戒や緊急時の対応、交通ルールの遵守に向けた巡回指導を、全職員で行っています。その際、新型コロナウイルス感染症の対策としてマスクの着用やソーシャルディスタンス等の意識をもつように指導しています。
- ③各学部とも年に数回、交通安全教室を行い、交通ルールや公共機関の適切な利用の仕方、緊急時の対応等について学習しています。また、例年、外部団体から用具借用の御協力もいただいておりますが、今年度は、新型コロナウイルス感染症対策で密集を避けるため、用具借用は見送りました。今後も、様々な実施方法を検討し、安全に学べるように工夫をしていきたいと思ひます。

(2) 生活について

本校の学校安全計画を作成し、職員全体へ共通理解を図りながら、安全教育を進めています。高等部においては、「携帯電話やスマートフォンなどの安全な利用法を身に付け、トラブルを未然に防ぐ」といった目標のもと、「SNS に関する指導の充実」に努めています。

いじめ等の問題行動の対応として、未然防止や早期対応ができるように、児童生徒一人一人と教師が向き合う機会（トークタイム、ゆうゆうタイム、いじめアンケートの実施）を意図的に設ける取り組みをしています。その結果を基に、各家庭と学校とで情報を共有し、児童生徒へ一貫した指導・支援をしていきたいと思ひます。

2 関係機関との連携

- ①外部講師（会津若松警察署員）に依頼し、様々なテーマ（「SNSの利便性と危険性」等）について講話をしていただく予定です。自分たちの現状や実際に起こった事故や犯罪から、「どういった点が問題なのか」を考えていくことで、生徒たちも自分のこととして捉えながら、学習に取り組んでいます。
- ②児童生徒が地域で安全に生活できるように、会津地区管内の警察署と連携を取りながら、非行防止や不審者への対応、行方不明時の捜索活動等にご協力いただいております。

※「安全」「安心」に対する指導・支援は、学校の中だけでは育ちません。家庭や地域、学校が連携し、協力して子ども達の力を育てていくことが大切だと考えています。

小学部

14名の新入生と3名の転入生を迎え、学部総勢76名で今年度の小学部がスタートしました。コロナ禍の中、様々な行事が中止となったり、合同学習を縮小したりしましたが、文字通りピンチをチャンスに変えて、例年とは違った工夫をしながらの取り組みが見られた今学期となりました。

《入学おめでとう会》

全体で集まっての集会活動とはせず、それぞれに準備したプレゼントを1年生に渡すよう計画しました。2年生以上のみんなの気持ちが十分に伝わったと思います。

《わくわくタイム》(学部合同学習)

季節に合ったテーマを設定し、健康や安全について等各教室でビデオを視聴しました。登場する先生方の話をよく見たり聴いたりする様子が見られました。

《交通安全教室》

グループ毎に学校周辺の横断歩道を渡る経験をしました。



高等部

高等部では、今年度28名の新1年生を迎え、総勢84名の生徒たちが高等部生活を送っています。高等部では、将来の社会生活や職業生活に備え、国語や数学、職業、家庭などの各教科学習をはじめ、生活単元学習、作業学習などの各教科を合わせた指導などで実生活に生きる基礎的・基本的な学習内容を取り上げて指導にあたっています。その中で、高校生としての自覚をもち自ら判断して行動できる力や生き抜く力、さらに社会の中で働く力などの育成を図っていきます。今年度は、コロナ感染症の影響で産業現場実習等における実習の時期の変更、各種体育的な大会の中止や延期、学部行事の中止や見直しが相次ぎ、貴重な学生生活に様々な支障が出ています。特に3年生などは、例年のような進路指導ができにくい状況です。

高等部では、様々な学習活動の工夫や精心面でのサポートの充実を図り、卒業学年については、より一層の関係機関との連携強化などで、希望進路実現に向けて力を尽くしていきたいと考えています。



中学部

中学部は、18名の新入生を迎え、総勢61名の生徒と32名の職員で学校生活を送っています。中学部になると各教科等の学習ではグループ別の学習や学年縦割りの学習も増え、学級以外の友達や先生とかかわる機会が増えます。様々な人とかかわり方を学ぶ機会となっています。学部行事の「新入生を迎える会」は、短時間でしたが、2年生がダンスの披露、3年生が中学部の行事の紹介、1年生が自己紹介という内容で実施しました。また、6月に予定していた「Ⅰ期校内実習」は、「作業学習強化月間」に替えて実施しました。「作業学習ははたらく力を身に付ける学習」でもあるので、そのために今、「できるようになること」を意識して目標を持って取り組めるようにしました。1学期は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、予定していた活動の中止や代替案での活動となりましたが、その分日頃の学習に丁寧に落ち着いて取り組める期間ともなりました。



◆教員の専門性向上を目指して～本年度の校内研究について～◆

今年度は「児童生徒の自ら学ぼうとする意欲を高め、力を引き出す授業づくりに向けて～教師間で共に課題に向き合い、協働して改善を図る取り組みを通して～」というテーマで、教員一人一人が目的意識をもち、校内研究に取り組んでいます。また、福島県特別支援教育センターの教育研究の実践協力校として共同研究にも取り組んでいます。

教員それぞれが自身の課題と考える各教科等のグループに分かれ、本校独自の授業シートを活用し授業づくりのサイクルを確認しながら、各教科の視点で児童生徒の個々の目標と指導法、手立てについて検証したり、話し合ったりし、日々の授業実践の充実に直接的に生かせる方法を探っています。

児童生徒一人一人が身に付けた知識や技能を活かしながら、自分自身で考えたり、表現したり、気付いて行動したりすることができるような深い学びにつなげていくことを目指し、校内研究を通して、教員一人一人の専門性の向上を図っていききたいと思います。